

株主インフォメーション

配当金はお早めにお受け取りください。

郵便振替支払通知書による配当金のお受け取り期間は、平成18年1月31日までとなっております。郵便振替支払通知書をご持参のうえ、お近くの郵便局でお受け取りください。

お受け取り期間を過ぎたら？

お受け取り期間を過ぎますと、郵便局でのお受け取りができなくなります。住友信託銀行の本・支店の窓口でお受け取りになるか、郵便振替支払通知書の裏面記載のお受け取り方法欄に必要事項をご記入のうえ、住友信託銀行証券代行部までご連絡ください。

郵便振替支払通知書を紛失された場合は？

住友信託銀行証券代行部までご連絡ください。なお、お支払いの手続きに時間を要しますので、あらかじめご了承ください。

銀行振込指定のおすすめ

郵便振替支払通知書による配当金のお受け取りは、お忘れになることもありますので、安心・確実な銀行振込によるお受け取り方法をおすすめいたします。詳しくは住友信託銀行証券代行部までお問い合わせください。

株主メモ

決算期	9月20日
定時株主総会	毎年12月
権利確定日	利益配当 毎年9月20日 中間配当 毎年3月20日
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417 (その他のご照会) ☎ 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同取次所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
公告の方法	日本経済新聞に掲載。但し、決算公告に代えて貸借対照表及び損益計算書に係る情報は、当社ホームページ (http://www.falco.co.jp) において提供しております。

株式会社 ファルコバイオシステムズ

〒604-0911
京都市中京区河原町通二条上清水町346番地
TEL(075)257-8500
<http://www.falco.co.jp>

Fast and Accurate Laboratories with Confidence



第18期事業報告書

平成16年9月21日から平成17年9月20日まで

株式会社 ファルコバイオシステムズ

証券コード：4671



時代のニーズに的確に応え、揺るぎない成長企業へと発展させていきたい。

❖ 「強い企業」づくりの ❖ ひとつの成果が一部上場

当社は、本年9月に東京証券取引所市場第一部並びに大阪証券取引所市場第一部に昇格いたしました。これもひとえに株主をはじめステークホルダーのみなさまのおかげと、改めて深く感謝いたしております。

第18期は、「強い企業」をつくらうという大きな方針を掲げ、この「強い企業」の実現のため「財務体質の強化」「成長性・収益性の追求」「質の高い仕事」「リスク管理体制の確立」「社員のモラル向上」の5つの目標達成に努力を重ねてまいりました。全社員が「強い企業」づくりのため取り組んできた成果のひとつが、一部上場であったと自負いたしております。

創業以来、当社は臨床検査事業を中心として今日まで着実な発展を続けてまいりました。しかしながら、さらなる成長を遂げるためには、臨床検査事業を補完する周辺事業の育成が不可欠です。医療



の現場から求められるニーズに応えられる体制をつくり上げてこそ、医療トータルサポート業としての機能を発揮することができます。すでに、遺伝子検査、電子カルテの販売、食品衛生検査、水質・環境検査、そして調剤薬局の経営など、着実に医療分野の周辺事業を展開しております。今後は次なる成長に向けて、サポート業務の一層の充実と、新しい分野の開発を積極的に推進してまいります。

❖ 健康にかかわる ❖ 使命感ある仕事への誇り

ファルコグループにとって、もっとも大切なことは人材の育成であると考えております。どの分野にも、質の高い専門性を持った人材が必要です。企業としてのクオリティを高めるため、教育研修プログラムを設け、未来のファルコグループを支え、さらに発展させる人材の育成に注力してまいります。

ファルコという社名は「Fast and Accurate Laboratories with Confidence」すなわち「迅速、正確、信頼」から名付けられています。これらは社員一人ひとりが業務を遂行していく姿勢として掲げているものです。臨床検査事業をはじめとして、ファルコグループが取り組ん



でいる仕事は生命や健康にかかわる重要なもので、「迅速、正確、信頼」はひとつとして欠かすことのできないものであります。人の役に立つ仕事であることに誇りを持ち、全社員が責任感を持って日常業務に当たることが、企業としての高い評価につながっていくと確信しております。

医療業界は日々、激しく変化を続けています。企業へのニーズも時代の価値観によって変わってまいります。これらに対して、機敏に対応する能力が重要であり、的確に応えられる企業こそが新しい成長を遂げることができると考えております。また、それに必要なのは新しい事業の開発、異業種との業務提携、独自の合理化やコスト低減化など、次代を見据えた具体的な取り組みが求められていることはいまでもありません。ファルコグループの全社員が先見性を磨き、絶えず新鮮な気持ちで改革・改善意識を持つことで、揺るぎない成長企業へと発展させていきたいと考えております。株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



すべての人の願い“健康”に、精度の高い技術で貢献しています。

最新テクノロジーときめ細かなネットワーク

総合研究所とイムノ研究所は、臨床検査業界における品質・安全の世界的な権威であるCAP (College of American Pathologists: 米国臨床病理医協会) の認定を取得。また、総合研究所ではISO9001も取得しております。すべてのプロセスにおいて厳格な品質管理を行い、最新の医療情報を収集・分析し、新しい検査項目を導入するとともに、検査現場で蓄積された知識・技術を基に、日常業務の改善に取り組んでおります。



総合研究所

総合研究所を核とした地域ラボは、検査方法、検査機器等を統一することにより、全国どこでも変わらない高品質な検査データを提供。地域に密着した検査受託体制で、業界最多の15,000以上の医療機関をサポートしています。また、検査業務のアウトソーシング化が進む医療機関に積極的な営業活動を行い、売上の拡大を目指してまいります。



テーラーメイド医療と予防医学を実現するヒト遺伝子検査

遺伝子情報に基づいて将来どんな病気にかかりやすいかを知ることができれば、病気の予防や定期的な健診を通じた病気の早期発見につながることから、予防医学やテーラーメイド医療の実現に向けて、ヒト遺伝子検査が注目を集めています。当社は、ミリアド・ジェネティクス社（米国：ユタ州）と業務提携し、同社が保有するヒト遺伝子配列特許に基づいた遺伝子検査の日本における独占実施権を獲得。以来、発症リスク診断検査の臨床応用に向けて、医療専門家と協力しながら研究を進めております。現在、家族性乳がん・卵巣がんの原因と考えられているBRCA1・BRCA2遺伝子の日本人における臨床的有用性を確認するため、国内5医療機関との間で共同研究を実施しております。これらヒト遺伝子検査の普及に向けた体制を今後もさらに充実させ、新市場の開拓を目指してまいります。また、医療関係者への情報提供として、遺伝カウンセリングなどに関する学術講演会を開催するほか、当社ホームページに国内外の最新情報を掲載するなど、遺伝子診療体制確立のサポートに努めてまいります。



<http://www.falco-genetics.com>



食の安全と安心を提供する食品衛生検査

医療分野で培ってきた臨床検査の技術とノウハウを活かして、食品の安全性向上にも貢献しています。ジェネティック・アイディー社（米国：アイオワ州）と遺伝子組換え食品検査のライセンス契約を結び、世界標準の分析手法を使って、遺伝子組換え食品検査を実施しております。また、黒豚判別遺伝子検査、動物由来体含有検査、アレルギー特定原材料含有検査、残留農薬検査など、食に関するさまざまな検査に取り組んでおります。



医療の高度情報化を支える電子カルテ

当社は、電子カルテ「SUPER Clinic」をはじめ、診療支援システム「TASCAL」、人間ドック・検診システム「Hyper Dock」など、医療現場の要望に応える多様なシステムを提供しております。また、臨床検査事業のネットワークを活かして、医療機関の経営サポートや学術情報サービスの提供なども行っております。

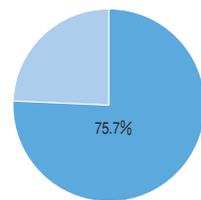


電子カルテ「SUPER Clinic」

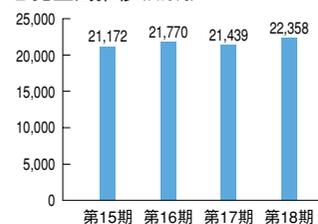
今後の取り組み 医療費抑制政策のもと、アウトソーシング化に対応

平成18年4月に診療報酬の改定が予定されるなど、医療費抑制政策は続きますが、高齢化社会の進展及び医療機関からの検体検査や検査室運営のアウトソーシング化はさらに増加していくものと考えられることから、大手医療機関に対する提案営業を強化してまいります。

■ 売上構成比



■ 売上高推移 (百万円)





地域に密着し、信頼されるサービスを提供しています。

より多くの方の健康のため、さらに出店を加速

医薬分業の進展に伴い、調剤薬局市場は今後も拡大すると予測されております。当社は、調剤薬局事業を第2の基幹事業と位置付け、平成11年より参入し店舗を各地に展開しております。平成16年のチューリップ調剤株式会社の子会社化に続き、平成17年にはファーマプロットグループ3社を子会社化。事業エリアの拡大によって薬剤仕入れなどでのスケールメリットを図るとともに、最新の調剤システムの導入により、正確でスピーディな調剤、厳密な薬歴管理など、信頼性の高いサービスを提供しております。今後も、患者さまと医療機関の両方に接点を持つグループのネットワークを活かして在宅介護などへの展開も視野に入れ、M&A戦略によって出店計画を積極的に推進し、地域に密着した事業としてなお一層の強化を図ってまいります。

調剤薬局等店舗総数の推移



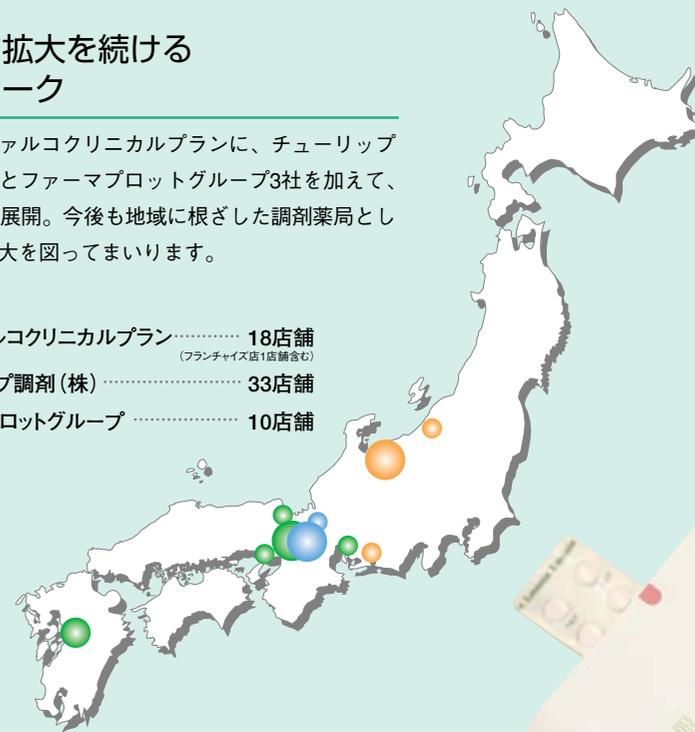
高齢化社会を迎え、在宅介護関連市場にも進出

高齢化社会を迎えて、介護に関する事業への需要はますます拡大してまいります。株式会社ファルコクリニカルプランは、良質なヘルス&ケア商品・サービスを提供する「介護ショップはやぶさ」を開業。介護用品から生活・健康関連用品まで幅広い商品を取り揃え、福祉用品のレンタルやバリアフリーなど住宅改修のご相談にも対応しております。

ますます拡大を続けるネットワーク

株式会社ファルコクリニカルプランに、チューリップ調剤株式会社とファーマプロットグループ3社を加えて、現在61店舗を展開。今後も地域に根ざした調剤薬局として店舗数の拡大を図ってまいります。

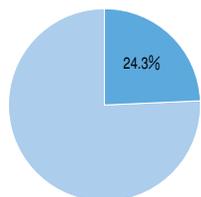
- (株)ファルコクリニカルプラン 18店舗
(フランチャイズ店1店舗含む)
- チューリップ調剤(株) 33店舗
- ファーマプロットグループ 10店舗



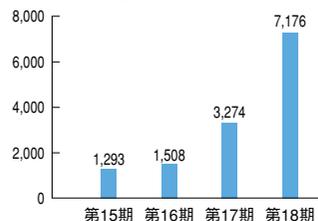
今後の取り組み 医薬分業の進展による多店舗展開を推進

調剤薬局市場は、薬価改定などにより収益率は低下傾向にありますが、医薬分業は今後も進展し、市場の拡大が見込めます。当社は、M&A戦略による子会社化や店舗のスクラップアンドビルドを推進し、店舗数のさらなる拡大を目指し、第2の基幹事業として着実に成長させていきたいと考えております。

■ 売上構成比



■ 売上高推移(百万円)



1 ファーマプロットグループ3社を子会社化

当社は、平成17年5月にファーマプロットグループ3社（株式会社プロット、株式会社ファーマプロット、株式会社MINORI）の全株式の取得を完了し、子会社化いたしました。昭和31年の株式会社プロットの創業以来、ファーマプロットグループは京都と滋賀で10店舗の調剤薬局を展開しております。同グループの子会社化により、ファルコグループの調剤薬局等は全国で61店舗となりました（平成17年9月現在）。これからもM&Aを積極的に行い、調剤薬局事業をさらに拡大し、臨床検査事業と並ぶ第2の基幹事業に育ててまいります。



2 東証・大証一部に上場



当社は、平成17年9月1日に東京証券取引所市場第一部並びに大阪証券取引所市場第一部に昇格いたしました。市場からの高い信頼性と認知度を確保し、資金調達を多様化できるとして経営基盤のなお一層の強化を図ってまいります。

3 遺伝子研究用試薬の国内独占販売を開始

当社は、オランダのバイオベンチャー企業エムアールシーホランド社と契約し、同社の遺伝子研究用試薬の国内独占販売を開始いたしました。従来の遺伝子解析法では検出が難しかった遺伝子の欠失や増幅が分かり、乳がんや筋ジストロフィーなど遺伝性が疑われる疾病の原因特定につながります。当社は、アメリカのミリアド・ジェネティクス社から家族性乳がん・卵巣がんに関する遺伝子特許の国内独占実施権を取得しており、今回の試薬販売によって、将来性のあるヒト遺伝子関連部門を戦略分野としてさらに充実させました。

知りたい、聞きたい 脂質関連検査

かつて「成人病」と呼ばれていた「生活習慣病」。普段の生活習慣が病気の発症や進行に関与しているという考え方から名付けられました。生活習慣病には、糖尿病・循環器病・大腸がん・アルコール性肝炎・高尿酸血症、そして高脂血症などがあります。今回は、高脂血症に関連した検査についてご説明いたします。高脂血症の検査として脂質関連検査（表1）が多く実施されていますが、そのなかでも総コレステロール、中性脂肪（トリグリセライド）の検査を中心にご紹介いたします。みなさまの健康維持や管理にお役立てください。

総コレステロールと中性脂肪

※総コレステロールには、HDL（善玉）コレステロールとLDL（悪玉）コレステロールがあります。

- 1 HDLコレステロールは、末梢組織から余分なコレステロールを運び出して動脈硬化を抑える働きがあります。
- 2 LDLコレステロールが増加すると、血管内壁に沈着し、動脈硬化を促進させる原因となります。
- 3 中性脂肪は脂肪組織に蓄えられている脂質でエネルギー源となりますが、摂取過剰になると動脈硬化や肥満の原因となります。

総コレステロールと中性脂肪の検査から分かること

- 総コレステロールや中性脂肪が高く、HDLコレステロールが低い場合を高脂血症と呼びます。高脂血症は動脈硬化の発生を高め、将来的に狭心症・心筋梗塞・脳梗塞などの合併症を引き起こす原因となります。また、糖尿病・高血圧症の発症原因になることも指摘されています。
- 総コレステロールが低く、中性脂肪が高い場合は経過観察のため定期的な健康診断が必要です。ただし、中性脂肪の高い状態が持続すると脂肪肝・急性膵炎・痛風を誘発する原因となります。
- 総コレステロールが低すぎる場合は、低脂血症・肝硬変・甲状腺機能亢進症などが考えられます。

高脂血症の予防法

- 糖質の過剰摂取に注意
砂糖・お菓子・清涼飲料水などに含まれる糖質は、過剰摂取すると体内で中性脂肪に変化します。糖質はできるだけ控えて、でんぷん質を多く摂るようにしましょう。
- 禁煙・禁酒
喫煙はHDLコレステロールを低下させます。またアルコールの飲みすぎは脂肪酸の分解が抑えられ、中性脂肪が増加。高脂血症だけでなく、さまざまな害をもたらします。
- 効果的な運動
日頃から軽いウォーキングを。水泳も効果的です。
- バランスのよい油類の摂取
飽和脂肪酸（肉の脂身・バター・生クリームなどに多く含まれる動物性脂肪）と不飽和脂肪酸（魚油・植物油）をバランスよく摂取しましょう。魚に含まれるEPA（エイコサペンタエン酸）は動脈硬化を防ぎます。
- 食物繊維を多く摂取
食物繊維を多く含む根菜類・海藻類・豆類などは、腸管でのコレステロールの吸収を抑える働きをします。
- 肥満に注意
高脂血症には肥満が大敵です。

（表1）

脂質関連検査		
総コレステロール	中性脂肪（トリグリセライド）	総胆汁酸
遊離コレステロール	β-リポ蛋白	グリコール酸（CG）
エステル型コレステロール	総脂質	リポ蛋白分画
HDLコレステロール	リン脂質	レムナン様リポ蛋白（RLP）コレステロール
LDLコレステロール	遊離脂肪酸（NEFA）	リポ蛋白（a）
コレステロール分画	過酸化脂質	アポリポ蛋白

高脂血症の診断基準（日本動脈硬化学会）		
	当社基準値	高脂血症の診断基準
総コレステロール	130~219mg/dl	220 mg/dl以上
中性脂肪	30~149 mg/dl	150 mg/dl以上
LDLコレステロール	70~139 mg/dl	140 mg/dl以上

受託臨床検査市場は、継続的に行われている医療費抑制政策や競争激化により受託単価は低下傾向にあります。また、高齢化社会の進展及び医療機関からの検体検査や検査室運営のアウトソーシング化により検体数は増加傾向にあります。

調剤薬局市場は、薬価及び保険制度の改定など医療費抑制政策により収益率は低下傾向にありますが、医薬分業政策の浸透により、市場は拡大傾向にあります。

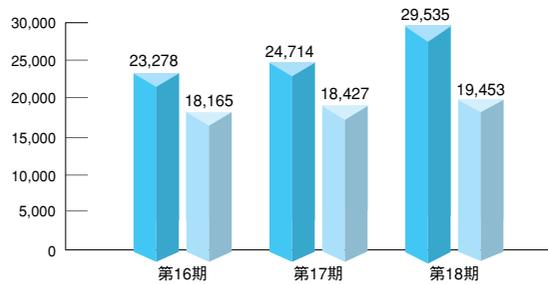
このような経営環境のもと、当社グループは、基幹事業である臨床検査事業におきまして、M&A、新規顧客の獲得及び医療機関からの検査室運営の受託などを推進することにより、売上の拡大を図るとともに、コスト削減

を進め、収益力の向上に努めてまいりました。また、今後の戦略分野と位置付けているヒト遺伝子検査につきましては、臨床検査としての有用性を確認するための臨床研究に引き続き取り組んでまいりました。

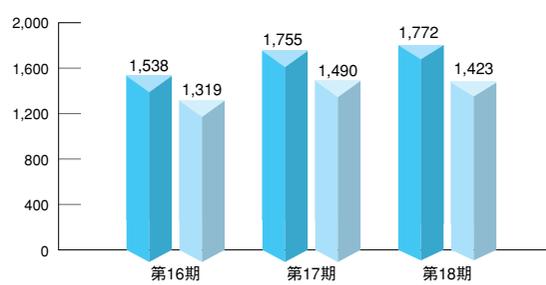
調剤薬局事業におきましては、M&Aを進めるとともに、スクラップアンドビルドを通じ店舗運営の効率化を図ることにより収益力の強化に努めてまいりました。

このような取り組みにより、当連結会計年度の売上高は295億35百万円（前期比19.5%増）、経常利益は17億72百万円（前期比1.0%増）、当期純利益は9億69百万円（前期比14.6%増）と増収増益になりました。

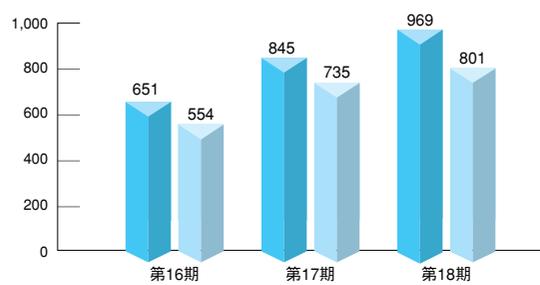
売上高 (百万円) 連結 単独



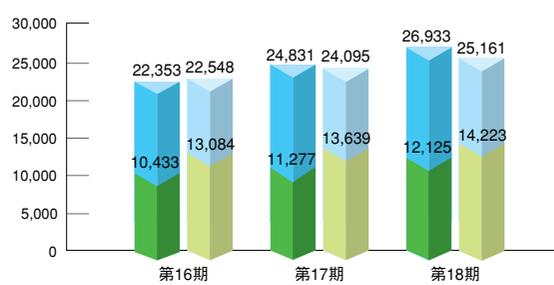
経常利益 (百万円) 連結 単独



当期純利益 (百万円) 連結 単独



純資産・総資産 (百万円) 連結 総資産(上) 純資産(下) 単独 総資産(上) 純資産(下)



臨床検査事業及び周辺事業

臨床検査事業につきましては、新規顧客の獲得及び検査室のアウトソーシング化についての提案営業を強化したこと並びにスギ花粉などの大量飛散によるアレルギー検査が増加したことにより、検査受託売上は増加いたしました。また、平成17年1月に有限会社飛騨臨床検査センター（本店：岐阜県高山市）の出資持分の一部を取得し子会社化することにより、売上の増加及び営業エリアの拡大を図りました。また、ヒト遺伝子検査につきましては、BRCA1、BRCA2遺伝子の臨床検査としての有用性を確認するための臨床研究に引き続き取り組むとともに、MRC-Holland b.v.（オランダ：エムアールシー ホランド社）の遺伝子研究用試薬の輸入販売を開始いたしました。

食品衛生・環境検査事業につきましては、株式会社ファルコライフサイエンスが平成17年3月にISO9001の認証を取得し、検査の精度管理・品質保証体制の強化を図りました。

医療情報化事業につきましては、臨床検査事業との連携を強化するとともに、販売力の強化を図りました。

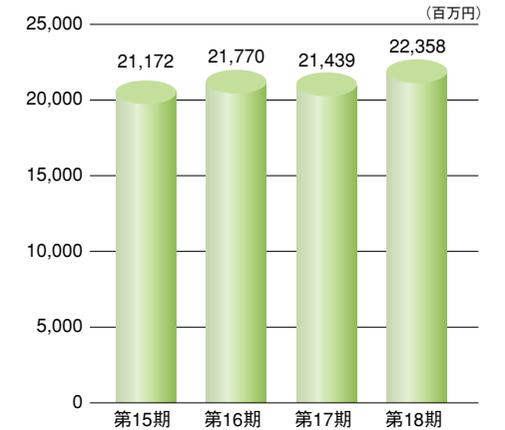
このような取り組みにより、臨床検査事業及び周辺事業の売上高は223億58百万円（前期比4.3%増）となりました。

調剤薬局事業

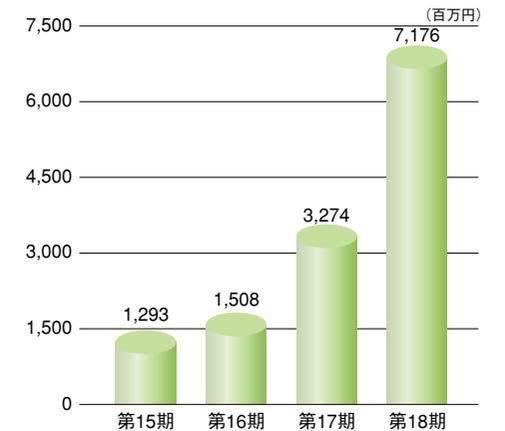
調剤薬局事業につきましては、平成17年5月にファーマプロットグループ3社（株式会社プロット、株式会社ファーマプロット、株式会社MINORI、本店はいずれも京都市左京区、合計10店舗）の全株式の取得を完了し、子会社化するとともに、株式会社ファルコクリニカルプラン及びチューリップ調剤株式会社におきましては、店舗のスクラップアンドビルドを推進し、13店舗開局（フランチャイズ店1店舗含む）、1店舗閉局いたしました。この結果、当社グループが運営する調剤薬局等店舗総数は61店舗（フランチャイズ店1店舗含む）となりました。

このような取り組みにより、調剤薬局事業の売上高は71億76百万円（前期比119.2%増）となりました。

臨床検査事業及び周辺事業の売上高の推移 (百万円)



調剤薬局事業の売上高の推移 (百万円)



●連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期		前期	
	(平成17年9月20日現在)	(平成16年9月20日現在)	(平成17年9月20日現在)	(平成16年9月20日現在)
資産の部			負債の部	
流動資産	10,416	8,929	流動負債	11,372
現金及び預金	3,618	2,719	支払手形及び買掛金	2,580
受取手形及び売掛金	5,568	5,139	短期借入金	5,931
たな卸資産	626	452	未払金	1,476
その他	675	701	その他	1,384
貸倒引当金	△ 71	△ 83	固定負債	3,427
固定資産	16,517	15,902	2 長期借入金	1,966
有形固定資産	10,215	10,157	その他	1,461
建物及び構築物	4,013	3,956	負債の部合計	14,799
土地	4,707	4,642	少数株主持分	8
その他	1,494	1,558	資本の部	
無形固定資産	2,974	2,691	資本金	2,620
投資その他の資産	3,327	3,053	資本剰余金	2,614
1 投資有価証券	1,713	1,201	利益剰余金	6,724
その他	1,799	2,049	その他有価証券評価差額金	201
貸倒引当金	△ 185	△ 197	自己株式	△ 36
資産の部合計	26,933	24,831	資本の部合計	12,125
			負債、少数株主持分及び資本の部合計	26,933

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

1 投資有価証券

「証券取引法等の一部を改正する法律」(平成16年法律第97号)に基づき、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資を投資有価証券とみなし、「投資有価証券」に含めました。

2 長期借入金

短期借入金を長期借入金に振り替えました。

●連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期		前期	
	(平成16年9月21日から平成17年9月20日まで)	(平成16年9月21日から平成17年9月20日まで)	(平成15年9月21日から平成16年9月20日まで)	(平成15年9月21日から平成16年9月20日まで)
3 売上高	29,535	24,714		
売上原価	17,410	13,035		
売上総利益	12,124	11,678		
販売費及び一般管理費	10,329	9,866		
営業利益	1,794	1,812		
営業外収益	171	147		
営業外費用	192	204		
経常利益	1,772	1,755		
特別利益	16	25		
特別損失	33	94		
税金等調整前当期純利益	1,755	1,686		
法人税、住民税及び事業税	820	774		
過年度法人税等	—	29		
法人税等調整額	△ 43	36		
少数株主利益	8	—		
当期純利益	969	845		

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

3 売上高

国立病院等の受託強化、調剤薬局の店舗数の拡大、(南)飛騨臨床検査センター及びファーマプロットグループの子会社化などにより、増収となりました。

●連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期		前期	
	(平成16年9月21日から平成17年9月20日まで)	(平成16年9月21日から平成17年9月20日まで)	(平成15年9月21日から平成16年9月20日まで)	(平成15年9月21日から平成16年9月20日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,591	2,236		
4 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,003	△ 2,917		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 700	813		
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	△ 1		
現金及び現金同等物の増減額	887	131		
現金及び現金同等物の期首残高	2,662	2,508		
非連結子会社合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	22		
現金及び現金同等物の期末残高	3,549	2,662		

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

4 投資活動によるキャッシュ・フロー

子会社株式取得による支出が減少いたしました。

●単独貸借対照表(要旨)

科目		当期 (平成17年9月20日現在)	前期 (平成16年9月20日現在)	科目		当期 (平成17年9月20日現在)	前期 (平成16年9月20日現在)
資産の部				負債の部			
流動資産	7,395	6,841	流動負債	8,080	8,230		
現金及び預金	2,003	1,384	買掛金	850	701		
受取手形及び売掛金	4,548	4,483	短期借入金	5,015	5,484		
たな卸資産	270	246	未払金	1,215	990		
その他の	637	800	その他	999	1,054		
貸倒引当金	△ 63	△ 74	固定負債	2,857	2,225		
固定資産	17,765	17,254	長期借入金	1,751	1,177		
有形固定資産	7,904	8,111	その他	1,105	1,048		
建物及び構築物	3,066	3,142	負債の部合計	10,938	10,456		
土地	3,602	3,602					
その他	1,234	1,365	資本の部				
無形固定資産	589	752	資本金	2,620	2,620		
投資その他の資産	9,271	8,390	資本剰余金	2,518	2,494		
投資有価証券	1,713	1,201	利益剰余金	8,919	8,423		
その他	7,680	7,319	その他有価証券評価差額金	201	135		
貸倒引当金	△ 121	△ 130	自己株式	△ 36	△ 34		
資産の部合計	25,161	24,095	資本の部合計	14,223	13,639		
			負債及び資本の部合計	25,161	24,095		

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

●単独損益計算書(要旨)

科目	当期 (平成17年9月20日まで)	前期 (平成16年9月20日まで)
売上高	19,453	18,427
売上原価	10,886	9,781
売上総利益	8,566	8,645
販売費及び一般管理費	7,182	7,178
営業利益	1,384	1,466
営業外収益	200	202
営業外費用	161	178
営業外利益	1,423	1,490
特別利益	13	13
特別損失	30	68
税引前当期純利益	1,406	1,435
法人税、住民税及び事業税	618	653
過年度法人税等	—	29
法人税等調整額	△ 14	17
当期純利益	801	735
前期繰越利益	622	367
中間配当額	108	—
合併による未処理損失受入額	—	168
合併による子会社株式消却額	—	14
当期未処分利益	1,315	920

(注)記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

●利益処分

科目	当期	前期
当期末処分利益	1,315,706,375	920,173,907
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金	109,302,660	162,478,290
役員賞与金	34,700,000	35,400,000
(うち監査役賞与金)	(4,700,000)	(4,700,000)
任意積立金		
別途積立金	100,000,000	100,000,000
次期繰越利益	1,071,703,715	622,295,617

配当政策

当社グループは、株主に対する利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識しております。安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努めるとともに、配当につきましても安定的な配当の継続を業績に応じて行うことを基本方針としております。

●株式の状況

会社が発行する株式の総数 40,000,000株
発行済株式の総数 10,968,121株
株主数 4,885名

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
赤澤寛治	654,690	5.97
株式会社京都銀行	431,600	3.94
ファルコバイオシステムズ従業員持株会	343,020	3.13
株式会社UFJ銀行	315,900	2.88
平崎健治郎	273,770	2.50
矢盛俊男	231,680	2.11
尾藤勇	212,390	1.94
大阪中小企業投資育成株式会社	208,000	1.90
日興コーディアル証券株式会社	204,500	1.86
ファルコバイオシステムズ取引先持株会	184,550	1.68

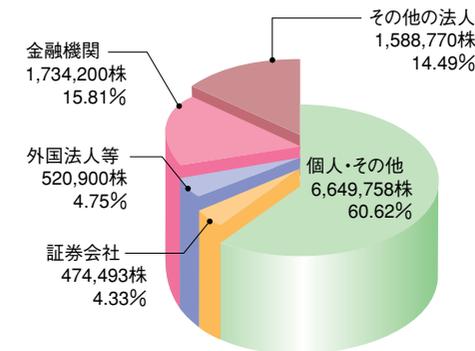
●会社概要

社名 株式会社ファルコバイオシステムズ
(英文名 FALCO biosystems Ltd.)
本社所在地 京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地
創設 昭和37年7月
設立 昭和57年8月
資本金 26億200万円
従業員数 705名(単独)、1,242名(連結)
主要な事業内容 人体から採取した血液、尿等の臨床検体検査の受託業務及び医療機関から処方箋を交付された患者に対して、処方箋調剤を行う保険調剤薬局の経営

役員
(平成17年12月15日現在)
代表取締役会長兼社長 赤澤寛治
代表取締役副社長 平崎健治郎
常務取締役 土田美喜男
常務取締役 安田忠史
取締役 四方俊一
取締役 環忠男
監査役(常勤) 矢盛俊男
監査役(常勤) 佐々木信次郎
監査役 木村秀夫
監査役 竹内昭夫

監査役木村秀夫、竹内昭夫は、株式会社の監査等に関する商法の特別に関する法律第18条第1項に定める社外監査役であります。

所有者別分布状況



●ファルコグループ

ネットワーク

地方名	営業所数	衛生検査所数	調剤薬局等店舗総数
関東	4	3	0
中部	10	5	34
近畿	25	11	24
中国	14	7	0
四国	5	3	0
九州	11	6	3
合計	69	35	61

(注) 調剤薬局等店舗総数には、フランチャイズによる調剤薬局1店舗が含まれています。

関係会社

株式会社ファルコバイオシステムズ東京
株式会社ファルコバイオシステムズ福井
有限会社飛騨臨検センター
株式会社ファルコバイオシステムズ兵庫
株式会社ファルコバイオシステムズ山陰
株式会社ファルコバイオシステムズ西日本
株式会社ファルコバイオシステムズ九州
株式会社ファルココミュニケーションズ
株式会社フレスコメディカル
株式会社ファルコライフサイエンス
チューリップ調剤株式会社
株式会社ファルコクリニカルプラン
株式会社プロット
株式会社ファーマプロット
株式会社MINORI

(注) 株式会社ファルコバイオシステムズ東京は、平成17年9月21日付で当社と合併いたしました。